

研究課題名

透析患者における skeletal muscle density と low attenuation muscle area が生命予後に及ぼす影響について

研究責任者の氏名

矢島隆宏

研究の概要

目的: 透析患者においては、筋肉の質の低下が予後不良因子であることが知られています。筋肉の質は、サロゲートマーカーとして skeletal muscle density (SMD: 第3腰椎レベルの骨格筋のCT値の平均値)で評価されることが主流でした。近年 low attenuation muscle area(LAMA: CT値が-29から29HUの低下した面積)が、新しい筋肉の質のマーカーとして報告されました。今回、アジア人の SMD と身長で補正した LAMA(LAMA/身長²)の基準値を参照し、SMD と LAMA/身長²と生命予後との関連を調査します。さらに、両者の組み合わせにより、全死亡の層別化、診断能の改善が得られるか検討します。

対象と方法: 2008年1月1日から2020年12月31日の間に、当院外来にて維持透析患者さんのうち、癌のスクリーニング検査の一環として腹部単純CTを施行した患者さんを対象とします。カルテから、身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、観察期間内転帰(全死亡、心血管死亡)などのデータを収集します。第3腰椎のスライスで SMD と LAMA を測定します。2022年12月31日までの経過から、SMD、LAMA と生命予後との関係性を評価します。

研究に関する記録は、研究終了後5年間保存した後に消去します。なお、研究の成果に関しては、学会発表や論文投稿する予定です。住所、氏名などの個人情報公開されることは一切ありません。

利用する情報の項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、CT所見、観察期間内転帰など

利用するものの範囲

医師: 矢島隆宏

連絡先

松波総合病院 腎臓内科 矢島隆宏

TEL: 058-388-0111

FAX: 058-388-4711